

1. 構想の概要

【構想の名称】

グローバル千葉大学の新生 - Rising Chiba University -

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

本学は、2014年4月に「千葉大学改革構想」を策定し、大学の有する専門領域を「理系、生命科学系、文系」の3つの領域に束ね、「TRIPLE PEAKS CHALLENGE」と銘打ち「技術・医療・起業」の高度なプロフェッショナル人材を排出することを目標としている。このような中において「未来のグローバルな人材」=「人間力のある人材」と考え、人間力の育成に必要な「俯瞰力」「発見力」「実践力」を身につける教育プログラムを開発し、グローバル人材育成を推進する。「グローバル千葉大学の新生 -Rising Chiba University-」の構想のもと、今日のように、グローバルに活躍する人材、イノベーションを生み出す人材が世界規模で渴望される中で、社会経済のダイナミックな変化に柔軟かつ適切に対応できる文理融合型の教養や専門教育を提供できる新組織を創設し、千葉大学を新生(Rising)する。

【構想の概要】

本構想では、新たな大学の景色を、新たな教養学部で国内外の学生にテラーメードの教育を供給することで実現する。そのためにガバナンス改革→学修制度の改革→プログラム改革とプログラムの充実のための進化を実現させるとともに、海外に分校を設置することを目標にグローバル・ネットワーク改革を行う。なかでも、千葉大学の特徴的な取組みとして、留学のための新たな飛び入学「国際教養学プログラム」を設置し、飛び入学で貯金した時間を留学で有効に利用するプログラムを実施する。このプログラムを支えるためのテラーメード教育を推進する専門職員SULA(スーラ Super University Learning Administrator)職の創設などの改革を行い、大学を新生する。またこの他、「発見力」のために大学院レベルの融合プログラムを実施する、「実践力」のために多様な研究ユニットを設け実施する、ことでグローバルなエキスパート人材を育成する。このために、700科目以上の英語による教養科目授業の実施、学部1学年の50%=1,200人(年間)の留学、3,000人(年間)の留学生の受け入れ、学部入学定員の1割にあたる120人分を特別な入試で受け入れる等を目指し、グローバル・キャンパスを目指す。



図1 構想概要

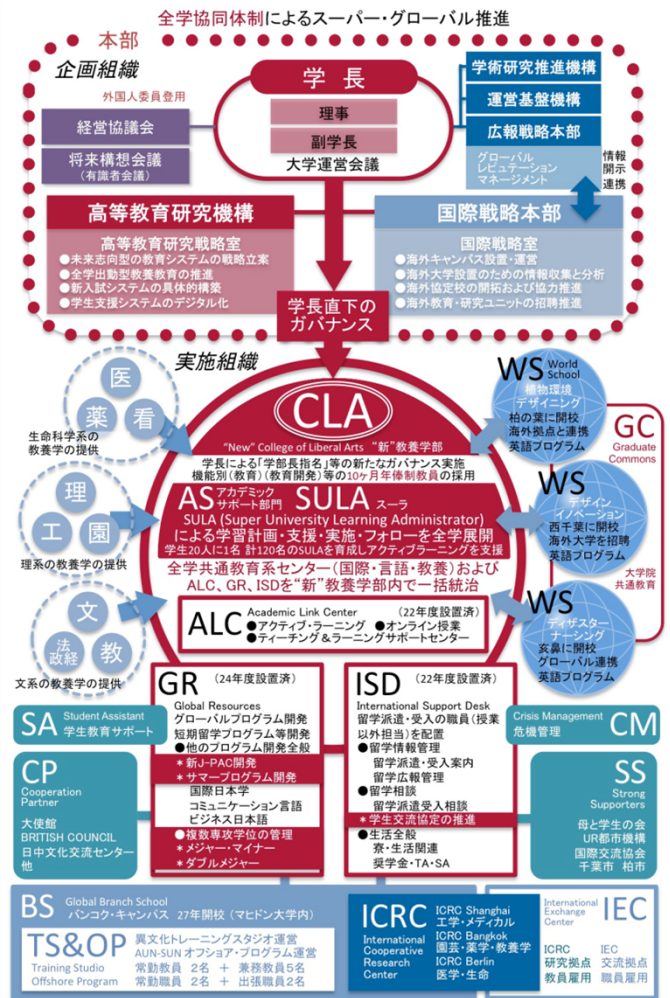


図2 実施体制

【10年間の計画概要】

- **平成26年 RISINGプログラム開始(グローバル人材育成skipwise継続実施)および学事歴の国際化**
平成24年より実施しているグローバル人材育成プログラムであるskipwiseプログラムを拡大し、派遣・受入両方を実施するプログラムとして、RISINGプログラムをスタートする。「国際日本学」をコアに派遣留学の継続実施と留学生受入の拡大路線を実施するために、協定校の拡大、学事歴の国際化対応を実施する。
- **平成28年「国際教養学部」設置**
本事業の大きな柱であり、千葉大学のグローバル人材育成のドライビング・フォースとなる新たな学部「国際教養学部」を設置する。これまでの「国際日本学」のプログラムから発展し、国際・日本・科学を混合(ブレンド)して学ぶ学部を設置する。
- **平成30年 新たなグローバル学修システム(メジャー・マイナー・サーティフィケートの実施)**
国際教養学部で実施する3メジャー(グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学)を全学に開放し、新たなマイナープログラムやサーティフィケートプログラムを実施する。全学で文理混合型の学修を推進し、真のグローバル人材を育成する。
- **平成31年 飛び入学全学標準装備による高大接続の強化で新たなグローバル化推進**
千葉大学の大きな特徴である飛び入学を全学で実施し、高大接続の新たな入試を新入試のシステム開始に合わせて実施する。この新たな高大接続のもと、特別入試でもグローバルに特化した入試を実施し、多様なグローバル人材を確保する。
- **平成33年 全学でのサマー(スプリング)・プログラム本格開始**
平成25年より実施している留学生受入の新たなプログラムである「サマー・プログラム」及び「スプリング・プログラム」を全学で実施し、多様なプログラムを整備する。これにより、1,200人の短期受入れ留学生を確保し、日本ファンの留学生を育成する。
- **平成35年 グローバルキャンパス実現のための海外校設置**
本事業のもう一つの大きな柱である海外校設置を目指す。平成28年度にはキャンパスの設置を行いその後強力な実績を上げ、最終的な目標である海外校の設置を目指す。年間200-300人の学生の送り出しと受入れを行う。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

- 本事業では、4つの改革を実施し、千葉大学を新生する。
- **ガバナンス改革による新生**
本構想で設置する国際教養学部では、「グローバル」と「イノベーション」をキーワードに幅広い学修が可能な文理混合のプログラムを実施する。この新学部の中に、**全学教育の運営を支援する実行組織「アカデミック・サポート部門(AS)」**を設置し、新たなアカデミックな業務を担当する専門職員SULA(スーラ Super University Learning Administrator)を育成する。
 - **ガバナンス改革から学修制度の改革へ**
千葉大学の大きな資産である飛び入学を利用し「飛び入学で留学！」を合い言葉に、飛び入学により時間を貯金し世界に飛び立つことを推奨する新たなプログラムとして、「国際教養学プログラム」を実施する。また、学事歴についても6タームを導入することにより、海外の大学の授業カレンダーと間接的に同期させ、単位認定の仕組みまで確立する。
 - **学修制度の改革からプログラム改革へ**

多様な学びを実現するために、文理混合を主眼においたプログラム開発を学部及び大学院で行い、日本人及び留学生の双方を対象として実施する。具体的には、学部におけるダブルメジャーと大学院における大学の世界展開力強化事業のプログラムを基にした部局横断型のワールド・スクール・プログラムを全学に展開する。

■ **グローバル・ネットワーク改革**
グローバル・ネットワーク改革では、大きく2つを実施する。海外校の設置とアライアンス交流である。これまでの交流実績を基に、タイ・マヒドン大学に海外キャンパスを設置し、学部生向けの体験型短期留学(トレーニング・スタジオ)プログラム、専門教育プログラム、オフショアプログラム、ダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム、国際共同研究拠点(園芸学、生命科学)を展開する。



図3 特徴的な取組み

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに12名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーションまで幅広く実施している。また学内の教養科目の英語による提供数を拡大した。



〈イングリッシュ・コミュニケーション〉

○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**ティーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)**として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成26年度は、学内よりSULA候補者を選定し、今後の組織構築の準備を始めた。

○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)の試験的に開発し2回実施。その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。プログラム広報用のビデオも作成した。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈ショート・プログラム広報ビデオの一部〉

○ 学事歴や教務システムの国際化の推進

平成28年度より**6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)**を導入し、**留学派遣および留学受入を推進**する。とくに第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマープログラムの推進や、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月よりの受入れで海外の学事歴に対応する。これに伴い、各学科のカリキュラムマップを構築、分かりやすく授業体系を説明するとともに、シラバスの英語化を推進した。

ガバナンス改革関連

○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部(予定)の設置準備

グローバル人材育成の大きな成果である『国際日本学専攻(副専攻)』を礎に、「**国際**」+「**日本**」+「**科学**」をブレンドして学ぶ**文理混合型の新たな学部を設置**し、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置するための準備を行った。



〈国際教養学部の予告ホームページ〉

○ グローバルな人事制度

平成26年度より、積極的に**年俸制**を導入しており、50名以上の実績を確保した。また、平成27年度より実施する**クロス・アポイントメント**の整備を行い、**国際的なクロス・アポイントメント**を実施、海外教員の採用を推進する。

○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。最終的には、**120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置**させる。また、職員の研修制度として、新たに**シャペロン研修**—35歳未満の若手職員を学生派遣プログラムのために現地に同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、**8名を派遣し職員の国際性・語学力を向上**させた。

教育改革関連

○ 高度なアクティブラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度な**PBL型のアクティブラーニング科目群を10科目以上設置**した。また、**スチューデント・アシスタント制度(SA制度)**を拡大し、**イングリッシュハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSA**の導入を推進した。

○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、**3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャー**のほか、**英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナー**や、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステム構築の検討を開始した。

○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、**22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)**を修得するプログラムを計画した。また、**B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)**は、パイロット期間から実プログラム実施へと移行した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員が英語による教養科目の開設を義務づけた。

○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

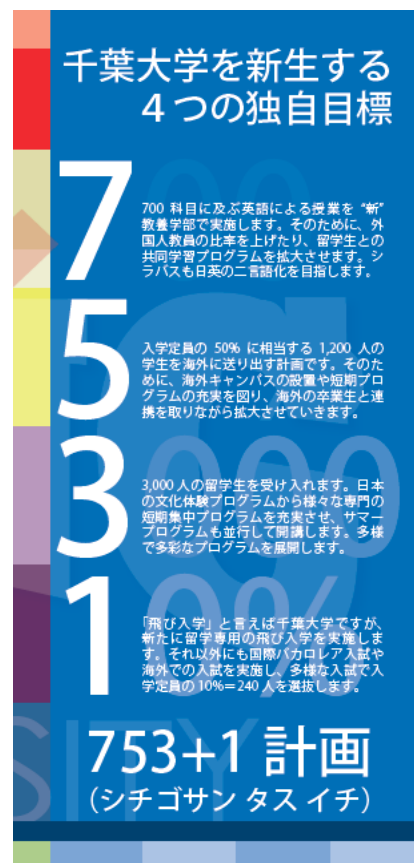
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成26年度には新規に留学導入専用のBOOTプログラムを5つ設置する等、140名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショートプログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成26年度には、ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)の試験的に開発し、2回実施60名の留学生を獲得できた。

○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜する。平成28年度設置予定の国際教養学部では、定員の11%を英語による特色入試で選抜する予定で計画している。



千葉大学を新生する
4つの独自目標

7
700科目に及ぶ英語による授業を「新国際教養学部」で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

5
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3
3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様な多彩なプログラムを展開します。

1
「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜します。

753+1 計画
(シチゴサン+イチ)

〈753+1計画のパンフレット〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部の創設

国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。平成26年度は、その設置準備を行い、平成28年度設置を目指している。

○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テラーメード教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。平成26年度は、平成28年に創設するための様々な整備を開始した。

○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。平成27年度には、これまで大学の世界展開力強化事業として実施した「植物環境デザインプログラム」をワールドスクール化するため、これまでのエビデンスをまとめ、プログラムの構築を行った。

■ 自由記述欄

○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との連携を強化し、サテライトキャンパス設置のための多様な連携を開始している。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。

○ 国内他大学とのネットワークの構築

平成26年より始まった国立六大学連携(新潟・千葉・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内の大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。



〈マヒドン大学でのプログラムPR〉

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに12名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーションまで幅広く実施している。また学内の教養科目の英語による提供数を拡大した。



〈イングリッシュ・コミュニケーション〉

○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**ティーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)**として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成28年度にSULAとして採用される人材は学内から募集し、国際教養学部の事務部に2名よりスタートする。

○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を試験的に開発し2回実施。平成28年度は13プログラム本格実施。海外の協定校に資料配布。その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。プログラム広報用のビデオも作成した。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈ショート・プログラム広報ビデオの一部〉

○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より**6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)**を導入し、**留学派遣および留学受入を推進**する。とくに第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマープログラムの推進や、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月よりの受入れで海外の学事暦に対応する。ナンバリングおよびカリキュラムマップの構築については平成27年度に終了し、平成28年度より本格導入した。以上のように分かりやすく授業体系を説明するとともに、シラバスの英語化も推進し、医学部、薬学部、工学部では終了している。

ガバナンス改革関連

○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部の設置

グローバル人材育成の大きな成果である『国際日本学専攻(副専攻)』を礎に、「**国際**」+「**日本**」+「**科学**」をブレンドして学ぶ**文理混合型の新たな学部を設置**し、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置した。



〈国際教養学部のホームページ〉

○ グローバルな人事制度

平成26年度より、積極的に年俸制を導入しており、100名以上の実績を確保した。また、将来的にはクロス・アポイントメントの整備を行い、**国際的なクロス・アポイントメント**を実施、海外教員の採用を推進する。

○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。最終的には、**120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置**させる。また、職員の研修制度として、新たに**シャペロン研修**—35歳未満の若手職員を学生派遣プログラムのために現地に同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、**12名を派遣し職員の国際性・語学力を向上**させた。

教育改革関連

○ 高度なアクティブラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度な**PBL型のアクティブラーニング科目群を10科目以上設置**した。また、**スチューデント・アシスタント制度(SA制度)**を拡大し、**イングリッシュハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポート**など機能的なSAの導入を推進した。

○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、**3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャー**のほか、**英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナー**や、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステム構築の検討を開始した。

○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、**22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)**を修得するプログラムを計画した。また、**B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)**は、パイロット期間から実プログラム実施へと移行した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、**全員が英語による教養科目の開設を義務づけた。**

○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

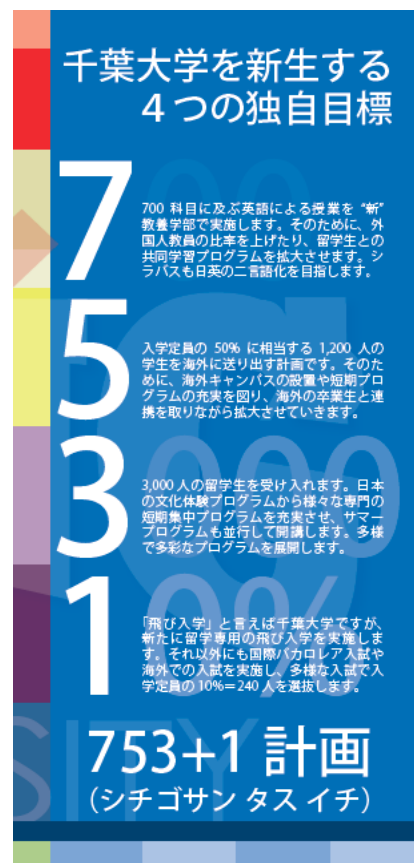
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成27年度には**留学導入専用のBOOTプログラムなどで220名程度の学生を派遣した。**このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショートプログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成27年度には、**ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を試験的に開発し、2回実施60名の留学生を獲得できた。**

○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜する。平成28年度設置の**国際教養学部では、定員の11%を英語による特色入試で選抜した。**



千葉大学を新生する
4つの独自目標

7
700科目に及ぶ英語による授業を“新”国際教養学部で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

5
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3
3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様で多彩なプログラムを展開します。

1
「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%=240人を選抜します。

753+1 計画
(シチゴサン+イチ)

〈753+1計画のパンフレット〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部の創設

国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。平成27年度は、その設置準備を行い**平成28年度からの設置が認められた。**

○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テーラーメイド教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。平成27年度には、SULAとして採用される人材を学内から募集し、平成28年度から国際教養学部の事務部に2名配置した。

○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度には**すでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。**

○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。平成27年度には、これまで大学の世界展開力強化事業として実施した**「植物環境デザインプログラム」をワールドスクール化するため、これまでのエビデンスをまとめ、プログラムの構築を行った。**

■ 自由記述欄

○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との連携を強化し、サテライトキャンパス設置のための多様な連携を開始している。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。平成28年度には、ドイツ・シャリテ医科大学(フンボルト大学)にベルリン・キャンパス、アメリカ・UCSD(University California San Diego)に生命科学用のサンディエゴ・キャンパスを設置し、海外3キャンパスを運営する。



〈マヒドン大学でのプログラムPR〉

○ 国内他大学とのネットワークの構築

平成26年より始まった国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内の大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。